



**DH SYSTEM**  
大日本塗料株式会社

商品番号 1925

# SDCコート#402TエコG

1. 一般名 非特定化学物質型タールエポキシ樹脂塗料
2. 規格 社内規格
3. 特徴
  - 1) JIS G 3443-4:2020 付属書A、JWWA K 115:2018 の塗料の組成および塗膜の品質を満たす。
  - 2) エチルベンゼンやメチルイソブチルケトン等を含めた特別有機溶剤を含まない。
  - 3) ビチューメンとして特殊膨潤炭を使用。コールタール分を含まない。
  - 4) 従来のタールエポキシ樹脂塗料よりも上塗りブリード性が少ない。
  - 5) 耐水性・耐海水性など、防食性がすぐれている。
  - 6) エアレススプレー性に優れ、1回塗りで厚膜塗装が可能である。
  - 7) 物理的性質、化学的性質がすぐれている。

## 4. 塗料性状

項目	内容			
容姿	2液性			
荷姿	20kgセット (A液: 17kg、B液: 3kg)			
色相	黒、さび色			
光沢	5分つや			
密度 (23°C)	塗料	1.37 (黒)		
	揮発分	0.85		
加熱残分	73% (黒)			
乾燥時間 (300μm)	温度	10°C	20°C	30°C
	指触	120分	90分	75分
	硬化※	36時間	22時間	16時間
標準膜厚	300μm (17L)			
引火点	SDS参照			
発火点	SDS参照			
爆発限界(下限~上限)	SDS参照			

上記塗料性状の数値は標準を示すものであり、若干の変動がある。

※歩行及び膜厚測定可能な目安となる時間を示す。

## 6. 施工上の注意

- (1) 高粘度品のためキャップ (蓋) から出にくい場合があります。その際は、容器の天蓋を切ってご使用下さい。
- (2) A液とB液を規定の割合に混合し、十分に攪拌して均一な塗料状態にする。
- (3) 一度に厚く塗りつけるハイビルドタイプの塗料である。刷毛さばきをよくする為の過度の希釈や必要以上に伸ばして塗装することなく所要量を塗布し、膜厚保持に努める。
- (4) A液とB液を混合した後は可使時間以内に使い尽くすこと。
- (5) B液が皮膚についた時はまずシンナーで洗い、つぎに石鹸水で洗う。
- (6) SDCコートシンナーGまたはSDCコートエコシンナー以外のシンナーは使用しない。
- (7) 非特定化学物質型対応が必要な場合、SDCコートエコシンナー以外のシンナーは使用しない。
- (8) 塗装終了後の使用機器は直ちにSDCコートシンナーGまたはSDCコートエコシンナーで十分に洗浄する。一度硬化すると再びシンナーでは溶解しなくなる。
- (9) 冬期気温が低い場合 (10°C以下)、希釈・洗浄はSDCコートエコシンナーを使用する。また、塗料の硬化反応がほとんど進まず乾燥が遅れるので塗装間隔は十分注意する。

## 5. 塗装基準

項目	内容			
素地調整	新設: プラスト ISO-Sa2 以上 塗替: パワーツール処理 ISO-St2 以上			
調合法	A液: 85部、B液: 15部 (重量比)			
可使時間	10°C	20°C	30°C	
	8時間	6時間	4時間	
使用シンナー	SDCコートシンナーG又はSDCコートエコシンナー			
塗装法	塗装方法	刷毛塗り	エアレス塗装	
	希釈率	0~10%	0~10%	
	標準使用量	0.16 kg/m <sup>2</sup>	1.10 kg/m <sup>2</sup>	
	標準膜厚	60μm	300μm	
	ウェット管理膜厚	100μm	530μm	
エアレス塗装条件	9.8MPa以上 (100Kg/cm <sup>2</sup> 以上) グラコチップ GGO-019~029			
塗装間隔	温度	10°C	20°C	30°C
	最小	36時間	22時間	16時間
	最大	7日	7日	7日

注) 1. 標準使用量は被塗物の形状や塗装条件によって異なる。

2. 上記塗装間隔は標準の環境における間隔を示すものである。

## 7. 関連法則

	A液	B液
危険物表示	第4類第1石油類	第4類第1石油類
有機溶剤区分	第2種有機溶剤等	第2種有機溶剤等
有害物質表示	SDS参照	SDS参照
劇物表示	—	—

## 8. 使用上の注意 [警告]

- (1) 安全情報に関する内容は、SDSをご参照下さい。

使用上の注意の詳細は容器のラベルに表示。